日本原子力学会・炉物理連絡会

炉物理連絡会ニュース（No. 1）

1984年9月1日 発行

目　　次

1. “炉物理連絡会ニュース”の発刊に当って
2. 開催予定研究会…… 2
3. 開催予定国際会議
4. 京大炉「臨界安全短期研究会」の終了報告…… 3
5. 昭和59年度「第1回運営委員会」議事要旨…… 4
6. 第16回「炉物理・夏の学校」の終了報告
7. 第34回総会のご案内，会員異動

1. ”炉物理連絡会ニュース”の発刊に当って

炉物理連絡会が発足して，早くも16年になりました。会報「炉物理の研究」の発行回数も33を数えております。その裏表紙に時々印刷されています「炉物理連絡会の概要」の第2項事業の所には，「国内における炉物理研究者間の相互連絡，調整の役割りを果すため，年間約6回連絡会報として『炉物理』を発行する。……中略……さらに，関連するニュースをも含ませ，また諸外国からのインフォメーションも伝わるように努める。……」，とあります。しかし，諸般の事情により，1981年1月以降“会報”の発行は年1回というペースになってしまい，連絡の機能を果しているとはいい難い状況です。そこで，本年度第1回の運営委員会（後記）において，「炉物理の研究」とは別に「炉物理連絡会ニュース」を今後3ケ月に1回位の割合で流すことにしよう，という事になりました。内容は，国内国外の炉物理関連研究会，短期研究会，専門委員会の開催予定，論文募集，等のお知らせを主とする予定です。研究会等開催の予定がございましたら，ぜひ幹事まで御一報下さい。また，本ニュースの内容を充実させるため，皆様方の御意見，御希望をお待ちしております。

（木村逸郎）

2. 開催予定研究会

◎ 「近畿大学原子炉共同利用研究会」

——極低出力研究炉による研究の展開——

（趣　旨）　近畿大炉附属新実験設備の紹介と近畿大炉の特色を生かした共同利用研究成果の発表

日　時　　昭和59年 9月8日(土)　9：30～17：00

会　場　　近畿大学本館3F　第2会議室

（近鉄大阪線　長瀬駅下車10分）

〒577　東大阪市小若江3－4－1

TEL.　06－721－2332（内258）

お問合せ先　三　木　良　太　氏　（近畿大原研）

◎ 原子力コード研究委員会・炉物理研究委員会 合同

「原子力おけるソフトウェア開発」に関する研究会

日　時　　昭和59年 9月27日（木）～ 28日（金）

場　所　　日本原子力研究所　東海研究所　ABC会議室（事務2棟2階　TEL.5020）

本研究会についてのお問い合せ先

○原子炉工学部原子炉システム研究室　石黒幸雄氏（0292－82－5360）

中原康明氏（0292－82－5361）

○計　算　セ　ン　タ　ー　　浅井　清氏（0292－82－5611）

◎ 「1984年核データ研究会」

日　時　　昭和59年 11月13日（火）～ 15日（木）

場　所　　日本原子力研究所　東海研究所　ABC会議室

本研究会についてのお問い合せ先

○原研核データセンター（0292－82－5481～5483）

3. 開催予定国際会議（阪大・工　高橋亮人氏および東大・工　中沢正治氏の手紙による）

◎ 13 th Symposium on Fusion Technology

Sept. 24 ～ 28 , 1984 , Varese, Italy

オクタビアン関係では，1). Li球実験（発表者：椙山一典氏，東北大・工），2). Li平板でのTBR測定（高橋亮人氏，阪大・工），3). スカイシャイン（林　克己氏，日立エンジニアリング）の3件をポスター・セッションで発表。この会議には住田健二氏（阪大・工）も参加の予定。

◎ 5 th ASTM－EURATOM Symposium on Reactor Dosimetry

Sept. 24 ～ 28 , 1984 , GKSS, Geesthact, West Germany

軽水炉，高速炉，核融合炉関連のドシメトリー手法についての国際会議で，2年に1回米欧交替で開催

している。(出席者 120 名)

日本からの出席予定者は，関口 晃氏，中沢正治氏，植田伸幸氏（以上東大・工），谷口武俊氏(IAE)。

◎ 14th LWR－PV－SDIP Meating

Oct. 1～5, 1984, The Institute of civil Engineers, London

NRC 主催の軽水炉圧力容器監視試験用ドシメトリー改良プログラム。日本からは中沢正治氏，谷口武俊氏が参加の予定。

◎ IAEA CRP Meeting on 14 Mev Neutrons

Feb. 1～5, 1985, Bankok, Thailand

この会議は一般に open ではないが，高橋氏が 12～1 月チェンマイ大に IAEA Experts Mission として滞在される関係で参加の予定。

◎ Int. Conf. on Nuclear Date for Basic and Applied Science

May 13～17, 1985, Santa Fe, USA

1). OKTAVIAN での積分実験（Invited talk，高橋亮人氏）

2). Li 球実験では，椙山一典氏（東北大・工），山本淳治氏（阪大・工），関本 博氏（東工大），伊藤只行氏（名大・工）が参加の予定。

◎ IAEA Advisary Group Meeting on Neutron Sources

June, 1986, Leningrad, USSR

日本からは，OKTAVIAN と FNS（＋KENS）の報告が出される予定。

4. 京都大学原子炉実験所「臨界安全短期研究会」の終了報告

日　時　　1984 年 8 月 8 日(水)　10：10～16：55

場　所　　京都大学原子炉実験所　原子炉応用センター

核燃料サイクル全般にわたる炉外臨界安全問題について認識を深め，今後の研究上の展望を得るために開催。化学，化学工学，炉物理等の分野から 81 名（大学関係者 33，研究所・事業団 15，メーカー 23，計算機関係 6，電力会社 3，官庁 1）の出席をみる盛況であった。発表は

①各施設についての安全評価，安全管理上の考え方，②内外の臨界安全性研究の経緯と計画，③増倍率決定手法，を中心にレヴュー，問題点の指摘がなされ，専門分野を越えて卒直な質疑・討論が行われた。

当日回収した 64 票のアンケートでは，83％が複数専門分野にまたがる当日の形式を支持し，95％が今後の継続を希望。また実験所見学の希望も多かった。今後は，開催の回ごとにテーマを絞って 1 テーマに時間をかけ，具体的問題点を議論する一方，毎回少数のレヴュー発表を含めるのが良かろう。

当日の発表内容は，同実験所のテクニカルレポートとして発行される予定である。

（文責　名大・工　仁科浩二郎）

5. 昭和59年度「第1回運営委員会」議事要旨

日　時　：　昭和59年7月25日

場　所　：　御岳高原　名古屋市民休暇村（夏の学校の会場）

出席者　：　木村逸郎，平川直弘，松浦祥次郎，仁科浩二郎，伊藤只行，神田啓治，山根義宏（オブザーバー）

◎ 学会から本連絡会に対し今年度から補助金10万円/年，また「夏の学校」は10万円/回と増額になった。（木村委員長報告）

◎ 運営委員の役割分担，委員長：木村，副委員長：平川，総務：仁科（幹事機関），企画：神田（学会企画委員），松浦，編集：伊藤（幹事機関），小川（次回幹事機関），中沢（前回幹事機関）

◎ "炉物理連絡会ニュース"の発刊，約3ケ月毎。第1回は8月下旬。費用は，今年度予算の範囲で考える。

◎ "炉物理の研究"（第34号）について，原稿〆切は11月末日。発行は2月末日目標。

◎ 次回幹事機関は北大にお願いするよう，秋の総会に諮ることに決定。

6. 第16回「炉物理・夏の学校」の終了報告

予定通り無事終了した。参加人員は総勢52名。詳細は学会誌（9月号）に掲載予定。

尚，テキストには残部有，希望者には1部¥1,500にて頒布。申込先は学会事務局へ。

7. 第34回総会のご案内

日　時　：　昭和59年10月25日（木）　13時より

場　所　：　日本原子力研究所・東海研究所　小講堂（「秋の分科会」C会場）

（編集担当・運営委員　名大・伊藤只行）

会　員　異　動（1984年4月以降）

入会（10名）

芳賀　暢（原工試），白方敬章（動燃），辻　良夫（近大），小川喜弘（近大），大石晃嗣（原研），岡嶋成晃（原研），真下昇司（アイ・エス・エル），森　正　明（京大），三澤　毅（京大），原　明久（間組）

退会（1名）

小林隆俊（MAPI）